

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 132

江戸川区立清新第一小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	10	12	23	令和8年度の目標	9	9	11	13	9	10	11	14
令和7年度の結果	9	11	20	令和7年度の結果	7.8	6.1	10.7	12.5	5.8	8.5	10.1	12.8
令和6年度の結果	10	12	22	令和6年度の結果	9.5	11.5	3.4	6.5	9.8	13.5	11.2	13.6
令和5年度の結果	5	7	12	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度 目標				令和8年度 目標達成に向けた取組			
内容											
学校全体	<p>【国語】 成果は、問いに対する答えについて意見交流する場を設定したことにより主体的になり、多面的な考え方をすることができるようになったことである。課題は漢字や言語事項の確実な定着である。</p> <p>【算数】 成果は、区の学力調査や定着度調査の結果、EDOスク等を活用し、個々が弱点について学びおし、理解につながったことである。課題は、D層の児童へ既習内容を再度指導する時間の確保である。</p>			<p>【国語】 漢字や言語事項を理解し、活用できること。 初見の文章を読み、内容を理解することができること。</p> <p>【算数】 AB層の児童は、個々の学習課題に合わせて学習することができること。 CD層の児童は、既習事項を確実に習得することができること。</p>				<p>【国語】 よむYOMUワークを活用し、読解力の向上に努める。読書科の取り組みである年間23時間の朝読書では、多読を通して、読むことへの意欲を高める。国語の授業では、漢字や言語事項の確実な定着に努める。</p> <p>【算数】 区の学力調査の結果の分析を単元毎に行い、誤答しやすいポイントを抽出し、指導する際の重点事項として定める。分析結果をもとに各学年でより分かりやすい授業について話し合い、指導法の工夫を行う。</p>			
第1学年	<p>【国語】 成果は、吹き出しのワークシートを取り入れたことにより、主人公の気持ちや考えを書けるようになった。課題は、叙述から自分の考えや気持ちを表現したり、伝えたりすることである。</p> <p>【算数】 成果は、数を数えることや時計を読むことを生活の中に取り入れ、算数を身近に感じられるようになり、抵抗なく学習に取り組めたことである。課題は、繰り上がりや繰り下がりの計算で間違える児童が多いことである。</p>			<p>【国語】 叙述をもとに自分の考えを構築し、伝えること。 繰り上がりや繰り下がりの計算を確実に身に付けること。</p>				<p>【国語】 漢字の読み書きの定着に向けてドリル学習の反復練習を行い、定着を図っていく。また、授業で叙述に注目する学習を行う。様々な本に親しむ時間を確保し、読書を習慣化する。日記などの気持ちを表現する活動を取り入れ、定着を図っていく。</p> <p>【算数】 基礎・基本の定着に向けてスキルやタブレット学習によるドリル学習等を活用し、繰り返し反復練習を行って定着を図っていく。また、CD層の児童に対して、日常に加えてアップ教室等個別に繰り返し指導していく。</p>			
第2学年	<p>【国語】 成果は、漢字の定着に向けてスキルやタブレット学習によるドリル学習等を活用し、繰り返し反復練習を行うことで定着を図ることが概ねできた。課題は、物語文において叙述を基に想像することが難しい児童が多い。</p> <p>【算数】 成果は、体験的な活動を多く設定することで意欲的に学習に取り組むことができた。課題は、CD層の児童の基礎基本の定着である。アップ教室等を活用して個別に支援していくことである。</p>			<p>【国語】 文章を正確に読み、叙述をもとに想像すること。 【算数】 基礎、基本が確実に定着すること。</p>				<p>【国語】 漢字の定着に向けてタブレット学習やドリル学習等を活用し、繰り返し反復練習を行って定着を図っていく。また、様々な本に親しむ時間を確保し、読書を習慣化する。授業で音読する時間を確保し、正確に読む力を高める。</p> <p>【算数】 基礎・基本の定着に向けてスキルやタブレット学習によるドリル学習等を活用し、繰り返し反復練習を行って定着を図っていく。また、CD層の児童に対して、日常に加えてアップ教室等個別に繰り返し指導していく。</p>			
第3学年	<p>【国語】 成果は、よむYOMUに3年生でも取り組んでいる為、問われている問題と文章を結び付けて考えることができる児童が増えた。課題は漢字、言語事項等の基礎基本を確実に身に付けることである。</p> <p>【算数】 成果は、CD層の児童に授業で基本問題を繰り返し練習する時間を確保したことにより、できなかった問題ができるようになったことである。課題は身に付けた学習内容を数ヶ月後に忘れないようにすることである。</p>			<p>【国語】 漢字、言語事項等の基礎基本を確実に身に付けること。 【算数】 基礎基本を確実に習得すること。</p>				<p>【国語】 授業で音読を確実に文章を正確に読むことができるようにする。読む時間の活動時間を増やし、読む力をつける。また、スタディワークでのドリルパーク(国語)を活用し、漢字や言語事項の習得を図る。</p> <p>【算数】 授業でA～D層の児童の実態に合った学習内容を学年で考え、指導を図る。CD層の児童には基礎基本の内容を重点的に指導し、確実な習得を目指す。スタディワークでのドリルパーク(算数)を活用し、児童に合った学習内容を学習し確実に身に付ける。</p>			
第4学年	<p>【国語】 成果は、読み取りの根拠を文章から探す活動を行ってきたため、問われている問題と文章を結び付けて考えることができる児童が増えた。漢字は身に付いている児童が多い。課題は、言語の意味の理解を深めることである。</p> <p>【算数】 成果は、算数タイムを利用して、定着度調査や区調査の結果から、学習カルテやミライシードで自分の弱点を見直したことから、できる問題が増えたことである。課題は、学習内容を忘れずに定着させることである。</p>			<p>【国語】 漢字、言語事項等の基礎基本を確実に身に付け、問題の意図を正しく理解すること。 【算数】 基礎基本の確実な習得と学習内容を定着すること。</p>				<p>【国語】 音読を繰り返し行い、文章をまとめごとに理解する力をつける。よむYOMUなどを活用し、長文を所見でも理解する力をつける。し、新出漢字や言語事項の練習を繰り返し行い、基礎基本の習得を図る。</p> <p>【算数】 少人数クラスの実態に合わせた指導内容を検討し、どの層も理解できるように努める。CD層の児童にはアップ教室を活用し理解の定着を図る。算数タイムでは、ミライシード等を活用し、個人の弱点を克服させ、基礎基本を確実に習得させる。</p>			
第5学年	<p>【国語】 成果は、自分の問いをもち意見交流する学習活動により、考え方が高まった児童が増えた。課題は漢字、言語事項等の定着である。</p> <p>【算数】 成果は、算数タイムでの学習カルテやミライシードの実施、EDOスクを行うことでCD層の児童ができるようになったことである。課題は、苦手とする児童が多い分数の約分・通分、平均、割合などの定着である。</p>			<p>【国語】 漢字、言語事項等の基礎基本を、繰り返し学習で確実に身に付けること。 【算数】 個々の苦手分野に応じた復習を通して学習内容を定着すること。</p>				<p>【国語】 よむYOMUなどを活用し初見で長文を読んで要旨をつかむ力をつける。また、日頃から新出漢字、既習の漢字の練習を繰り返し行い、基礎力を高める。区の学力調査のできなかった問題を確実に身に付ける。</p> <p>【算数】 授業でA～D層の児童の実態に合った学習内容を学年で考え、指導を図る。CD層の児童には苦手分野の内容を重点的に指導し、確実な習得を目指す。スタディワークでのドリルパーク(算数)を活用し、児童に合った学習内容を学習し確実に身に付ける。</p>			
第6学年	<p>【国語】 成果は、自分の問いをもち意見交流する学習形態の推進により、学習への主体性や物語文や説明文の読解力が高まった児童が増えた。課題は漢字や言語事項等の定着である。</p> <p>【算数】 成果は、算数タイムでの学習カルテやミライシードの実施、EDOスクを行うことでCD層の児童ができるようになったことである。課題は、複数の単元にもたがう問題に対して、正しい立式ができないことである。</p>			<p>【国語】漢字、言語事項等の基礎基本を、繰り返し学習で確実に身に付けること。 【算数】学習内容の基礎基本の復習と個々の苦手分野の復習による基礎基本定着すること。</p>				<p>【国語】 よむYOMUなどを活用し、長文の要旨をつかむ力をつける。また、スタディワークでのミライシード(国語)を活用し、漢字や言語事項の習得を図る。</p> <p>【算数】授業でA～D層の児童の実態に合った学習内容を学年で考え、指導を図る。CD層の児童には苦手分野に基づき、基礎問題に取り組んだり、前学年までの学習内容の復習を行ったりする時間を設け、確実な習得を目指す。スタディワークでのミライシード(算数)を活用し、児童に合った内容を学習し確実に身に付ける。</p>			